

# 各事業への答申/2.環境保全対策事業（地域環境課）

## SDGsの位置づけ



- ▶ 海へ流れるごみの減量
- ▶ 河川へごみを流さないようにする啓発活動



- ▶ 除塵機を設置し、川を流れるごみを取り除く
- ▶ 清掃活動により、川を流れるごみを取り除く

## 各評価者による具体的な対応策・提案

## 事業を進める上での課題・求めるアドバイス

- 河川への不法投棄をなくすため、市民への啓発方法は？
- ・観光客等の市外訪問者への啓発方法は？
- ・上流・下流域への自治体への理解促進方法は？
- ・環境保全の観点から実現可能な企業連携などの手法はあるか？

- ▶ 現状の認識として、不法投棄については、悪化しているのかどうか、データなどで定量的に把握するべきである。
- ▶ 人間の心理として、綺麗なところにごみは捨てない。現状では、清掃活動のイベントなど情報があまり浸透していないように思う。なかなか市民に周知されていないように感じるので、一部の人だけではなく、全体に周知できる方法を検討していただきたい。また、ごみを捨てない意識だけでなくそれを行動に繋げる工夫が必要ではないか。例えば、年に数回の清掃活動の機会を増やしたり、参加しやすい曜日を複数設定することや、ボランティアとしての参加だけでなく、参加によってインセンティブを高める工夫が必要と思う。専門的な作業についてはお金をかけてでも実施するべきではないか。河川がきれいになったその先に目指すものは何かを明確にして人々に訴求していくことも考えていただきたい。
- ▶ 先行調査・研究の事例を確認したところ、人の手や目が常時あると感じられる場所には不法投棄やポイ捨てがされにくいという結果が出ており、そういった観点での先進事例等を参考にしてはどうか。また、流域自治体の連絡・協議の場を設け、県や警察にも参加を求め、情報共有等から始めるといったことは検討できないだろうか。意識が高い人々は一定数以上いると思うので、そこから行動につながるような、一押しが必要。ボランティアの考えだけでなく、参加することのメリットやインセンティブ、ごみを減らすだけでなく、ごみが減るとどうなるのかを伝えてはどうか。
- ▶ 子どもたちの社会科見学などで、除塵機を訪ねた際に、興味を引くような学習看板などがあり、親子でごみの問題を深められるようになればよいのではないか。
- ▶ 「なぜ捨てられるのか」を踏まえた対策が必要ではないか。例えば、ペットボトルのごみを減らすため、ごみ箱が設置された自販機を増やしていく取り組みなども考えられる。また、例えば行動経済学を活用してみるのもどうか。スウェーデンでは「世界一深いごみ箱」を設置し、ゴミを捨てたときの落下音の意外性等、「TheFunTheory（楽しさが人を変えていく理論）」を活かしてごみが減った例がある。例えばミニチュアの鳥居を設置すると日本人の感覚としてごみは捨てづらい意識も生まれるのかもしれない。

## コーディネーターによる意見のまとめ

- ▼ 単なる啓発に留まらない、除塵機に社会見学での学習を看板し親子でごみの問題を深められる取組や、仕掛けのあるごみ箱や鳥居の設置など、工夫が必要ではないか。
- ▼ 水資源の保全など、水道分野は市民から高い評価を得ている。周辺自治体と協力して進めてほしい。